

## 印章から古代メソポタミアの契約社会を考える

大河内 彬智

「契約」という概念が古代メソポタミアの時代からあったと聞いたら、大半の人はどう思うだろうか。驚きの声をあげる人は少なくないはずだ。私自身、契約や証書といったものが何千年も前から存在していたとは思っていなかった。しかし実際のところ、古代メソポタミアは契約社会だったのだ。『メソポタミア文明の光芒』には「売買、債務、養子縁組、結婚、遺産相続等々、多岐にわたる契約が公の場で取り交わされ、その契約内容を粘土板文書に刻んで証書とした。証書には証人としての複数の人物の名が書かれ、証人の何人かは粘土板の空白部に印章を捺した」とある（月本、2011）。印章とは、木や石といった印材に図柄を彫り込んだものであり、当初は動物や人間の形をしたスタンプのようなものだった。壺や籠に封をするために使われる他、倉庫の扉に封をすることで鍵としての役割を果たすこともあった。『オリエントの印章』によると、スタンプ印章は古くて紀元前七千年ほど前から使われており、同時期の魔よけの札と似たような装飾が施されていたという（コロソ、1998）。このことから印章は当初、封としてよりもまじないの道具やお守りとしての意味合いが強かったと思われる。この印章がどのように契約社会に関わっていったのかを考察する。

灌漑作業によって肥沃な三日月地帯へと変わったメソポタミアは農作物を大量に蓄えることができるようになり、余剰生産物を高原地帯へと運んで不足している資源と交換する交易が栄えたという（コロソ、1998）。そこで、印章はただ道具に封をするためだけではなく、各地で交易する商人が所有することで自らの身分を証明する証としての使い道も生まれていった。交易を滞りなく進めるために使われた道具は印章だけではない。トークン（数え駒）と呼ばれた粘土片が交易の物品や数量を記録するために使用されていた。トークンをブッラという粘土球の中に包み込み、託送品と目的地まで運び、争議になった場合にはその粘土球を壊して内容物をチェックしていたようだ（コロソ、1998）。しかし時間が進むうちに人々はより快適さを求めていき、立体的なブッラやトークンを使用するよりも、平面で持ち運びしやすい粘土板に数字を書き写すやり方が次第に広まっていった。前著には「この時に使われた表記形式が最初の文字になったのである」とある。つまりメソポタミアの農作物と各地の資源を交換し合う中で、より快適な証書となるものを探し求めた人々が人類史上初の文字となる「楔形文字」を発明したのである。楔形文字の誕生にこのような論理的な背景があったことに、私は感銘を受けた。

スタンプ印章は基本的に読み書きが始まる以前の社会で使われており、文字が発明されてからは円筒印章と呼ばれる円筒状の印章が頻繁に使われるようになっていった。交易の発展により急速に増加した仕事を効率よく処理するため、ハンコのように押しやすく持ち運びしやすい円筒印章が受け入れられていった。こうして平面的な粘土板に円筒印章で押印する契約社会が形成された。世界最古の契約社会の誕生には円筒印章と世界最古の文字の誕生が密接にかかわっていたのだ。中には、粘土板文書の改竄を防ぐために粘土板文書を円筒印章で封をした同じ内容の粘土板で包み、外の粘土板を壊して中を確認すれば偽造かどうか確認できるものも存在した（津野田興一）。シュメール人の社会でも現代社会のような不正が罷り通

っていたのだ。古代メソポタミア文明は私が想像している以上に現代に近いものだと分かった。

最後に古代メソポタミアにおける印章と契約社会の発展の経緯についてまとめる。古代メソポタミアでは初め、魔よけやまじないの一種として動物や人間の形をあしらった小道具が作られていた。中でも印章は封をするための便利な道具として急速に広まり、各地の交易が盛んになるにつれて粘土板といった記録媒体や文字の必要性が生まれ、最終的に粘土板文書と円筒印章による契約社会が誕生した。今回の作文を機に、文字の誕生や最古の契約社会の形成という歴史的転換期に立ち会うことができたことを嬉しく思う。人の、より便利なものを発明しようとする心意気は古代から変わっていないということを知ることができて良かった。そして快適な道具が当たり前のようにあふれてる今こそ、古代メソポタミアで努力や工夫を重ねて新たな発明を生み出した人々がいたという事実を思い出すべきだと感じた。なお、今回は印章や粘土板文書を通じて古代メソポタミアの契約社会について探ったが、その後の社会がどのように変容していったのかを詳しく調べるができなかった。アッシリア王国以後の印章の用途の変化についても追求することを今後の課題にしたいと思う。

#### 参考文献

- 『オリエントの印章（大英博物館双書—古代を解き明かす<4>）/ドミニク・コロソ著、池田潤訳/學藝書林、1998年
- 『メソポタミア文明の光芒—楔形文字が語る王と神々の世界』/月本昭男 監修、平山郁夫シルクロード美術館・古代オリエント博物館 編/山川出版社/2011年
- 『古代オリエントの世界 第2版』/古代オリエント博物館 編/山川出版社/2019年
- 『メソポタミア文明入門』/中田一郎/岩波書店/2007年
- 改ざんや偽造を防止 メソポタミア文明が生んだハンコ社会/津野田興一/日刊ゲンダイDIGITAL (nikkan-gendai.com)
- <https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/life/281132> (2023/10/31 閲覧)
- KAKEN—研究課題をさがす 古代メソポタミアにおける誓いと法的行為者としての神
- <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-05610032/> (2023/10/31 閲覧)
- JWAA\_06\_2005\_067-086.pdf (jswaa.org)
- [http://jswaa.org/wp/wp-content/themes/jswaa/pdf/jwaa/06/JWAA\\_06\\_2005\\_067-086.pdf](http://jswaa.org/wp/wp-content/themes/jswaa/pdf/jwaa/06/JWAA_06_2005_067-086.pdf) (2023/10/31 閲覧)